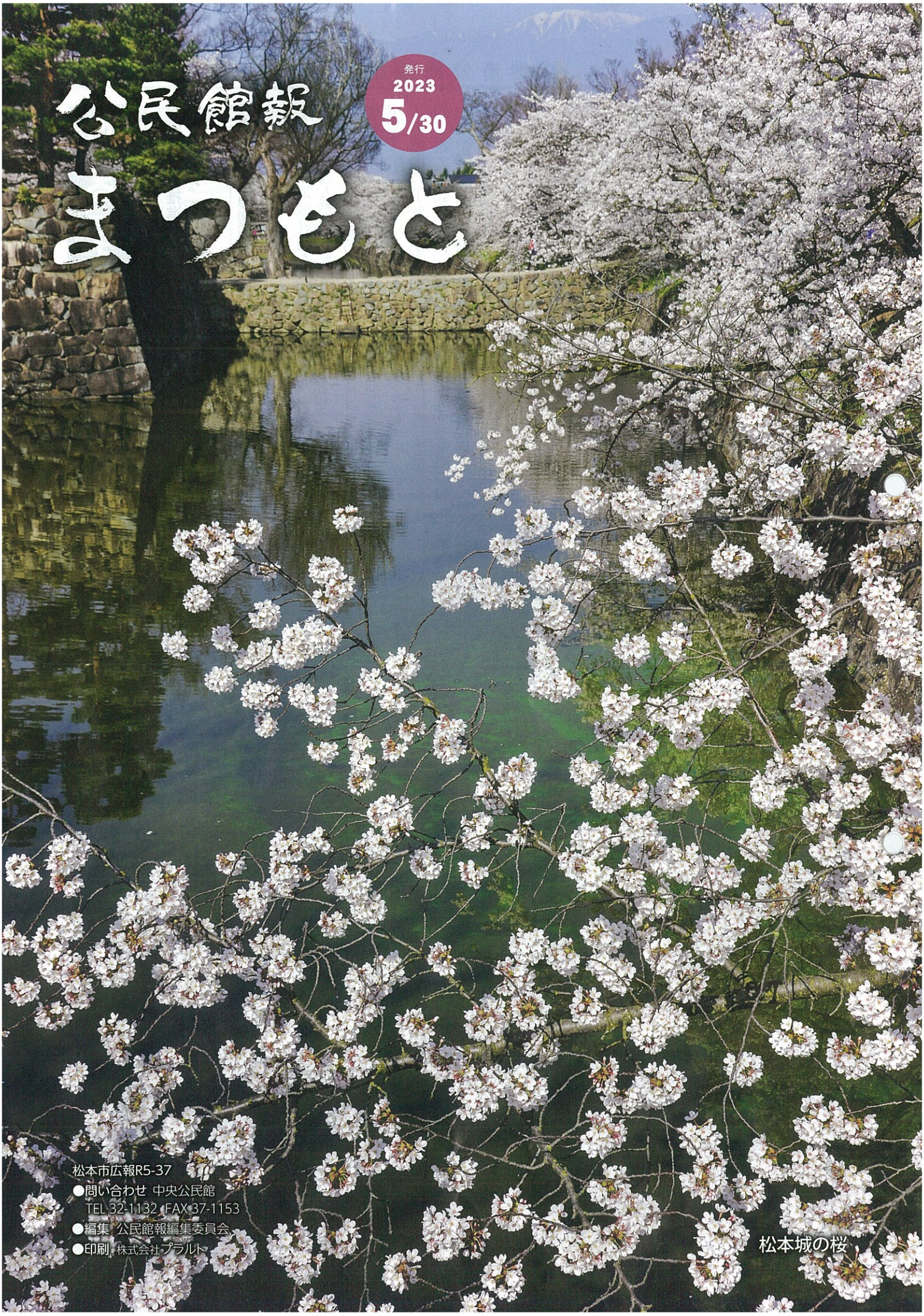
公民館報 まつもと

発行 2023 5/30



松本城の桜

松本市広報R5-37
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

増える「子どもの居場所づくり」

コロナ禍により社会活動が制限される中、市の「子どもの居場所づくり推進事業」は拡大し、新たに活動を開始した団体もあります。その一つ「笑和（えわ）はうす」を紹介します。

推進事業の概要

子どもにとって安全、安心で、温かな地域社会を創造するため、大人が子どもに対して食事を中心とする団らんの場を提供する活動を支援する事業です。

地域内の子どもが誰でも利用できる取組み、同一施設での所定の時間・回数の実施、毎回の食事提供、子どもの学習支援や保護者の生活相談など満たすべき要件があります。

令和2年度以降、9団体から8団体増え、現在17団体が支援を受けています。

テーブルにそろえた食材や道具

市ではより多くの地域で活動する団体が増加するよう、支援体制を整えています。

笑和はうすの一コマ

「今日はさくら餅を作ります」主催者で元教員の大久保俊介さんの声が、新村公民館に響きます。今日の参加者は6組の親子14人です。

スタッフが用意した材料が並び、レシピの説明が続きます。いくつかのテーブルに分かれ、8人のスタッフが手伝います。飽きてしまった子や眠くなった子のためのスペースも用意されています。

お話スタッフと遊んでいる間に、薄皮が焼き上がります。あんこを包むとさくら餅の完成です。初めて作って上手くいった！　皮がくっついたけれどあんこが美味しい！　など、たくさんのはしゃぎ声が響いていました。最後に帰りの会をして解散となりました。

親子仲良く力を合わせ

笑和はうすの活動とは

会の目標は「あそぶ・たべる・まなぶ・はなす」です。この4本柱に基づき、目的や願いに賛同する地域の皆さんにより運営されています。

他の団体との連携を模索したり、時節柄、食物提供時のアレルギーに注意して運営したいと、夢が広がります。

会への参加は無料、今後は月に2回新村公民館にて実施予定とのことです。

これからの展望

子どもの居場所づくりは、地域づくりの観点からも大切な取組みです。この他にも独自の子ども支援活動が活発化しており、コロナ禍による制限にもかかわらず、ニーズは増大していると思われます。

申し込みをすれば、誰でも気兼ねなく参加できる子どもの居場所が、多くの地域で運営されれば良いですね。

わがまち自慢（寿台地区）

「寿台町会連合会創立50周年記念式典」&「2023寿台 桜寿祭」開催

令和5年4月14～16日、寿台町会連合会は、50周年記念式典と恒例の桜寿祭を合わせて開催しました。今年度計画されている記念イベントの第1弾です。寿台体育館、ふれあいセンター、福祉ひろばなど、地区スタッフが入念に準備した各会場に多くの住民が集い楽しみました。

雨上がりの好天に恵まれた16日に記念式典および祝賀会が催されました。蟻ケ崎高校の書道パフォーマンスや、樽酒、焼きそば、フランクフルト、ソフトドリンク、豚汁、おにぎりの無料サービスなど、祝賀ムードにあふれました。

昭和43年から入居が始まった寿台地区は、市・県営住宅と分譲住宅が混在する県内最大級のマンモス団地でした。地区の連帯やきずなを深めるために、当時から住民間、世代間交流を積極的に進めてきました。

今回も桜寿祭の「ワクワク子ども広場」は、親世代、子ども世代のきずなを深めようと、若い住民で構成される壮青会と育成会が企画しました。また、ウォークスタンプラリーは、幅広い年代で参加可能なコースとして作り、親子連れ、友だち同士、高齢者も回っている姿が見られました。

50周年記念イベントとして開催される今年の寿台の地区行事が、さらに楽しみとなりました。

前日の雨の中組み立てた骨組みに当日朝から準備する地区スタッフ

書道パフォーマンスと大勢の参加者

梓川公民館報

梓川の世帯数・人口

世帯数	4,809戸
人口	12,278人
男	6,069人
女	6,209人

（令和5年.5.1現在）

令和5年度

梓川地区町内公民館長会長 就任のあいさつ

梓川地区町内公民館長会長
宮下　正

この度、梓川地区町内公民館長会長に選出されました。梓川地区並びに各町内公民館役員の皆様のご協力をいただき務めさせていただきます。

新型コロナウイルスの感染拡大により3年間にわたり公民館活動が大きな影響を受けてまいりました。今年度から地区運動会が廃止されることとなり、また7月に開催予定の梓川地区スポーツ祭も、安全・安心を最優先としてまちづくり協議会において今回は中止と決定されました。

人と人との交流が制限され地域のつながりも希薄になってきていると感じられます。このような状況ですが、公民館では親睦や交流、健康増進・文化活動の振興などの実現を目的として行事やそれぞれの講座・教室学習会などが計画されています。感染対策を行った上で皆さんが集い、様ざまなふれあいを通して地域の優しさや温かさが感じられる公民館活動を心がけてまいりたいと思います。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年度　梓川公民館関係役員名簿

町会	町内公民館長	子ども会育成会長
八景山	金井　信一	金井　深
花見	◎ 宮下　正	山田　賢一
上野	斉藤　政人	輪湖　秀敏
丸田	萬井　増博	小竹　利夫
上立田	伊藤　邦世	浅治　尚也
下立田	（理）小松　茂	西牧　清水
杏	岩原　厚史	中澤　光治
こまち	沼田　英也	松村　雅紀
角影台	小野　和昭	大日方　亨
上角	原口　邦彦	下林　修
下角	丸山　隆	塩田　晋介
小室	○ 高瀬　浩一	西牧　宏
北々条	三村　徳義	八釼　淳
南北条	丸山　政則	西村　順典
大久保	長瀬　隆浩	小松　哲司
北大妻	（理）西村　勝匡	○ 金井　佳代
上大妻	栗原　徹	（監）小嶋　泉
南大妻	降旗　邦敏	（監）小澤孝太郎
横沢	細田　正博	◎ 福嶋　寛人
氷室	市田　政男	古田　啓二
岩岡	児玉　治郎	牛田　隆男

◎会長　○副会長　（理）理事　（監）監事　敬称略

退任のあいさつ

館長
前村川館長

館長として4年間、皆様には大変お世話になり、任期を満了することができ、心より御礼申し上げます。新型コロナで講座や地区行事ができず、至らない点など多々あったと思いますが、大勢の皆様からの温かいお力添えにより職務の遂行ができ、感謝申し上げます。今後も地域づくりに協力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

新任のあいさつ

梓川地区町内公民館長
西牧新館長

新型コロナウイルスの影響で制限されていた活動も徐々に再開するものと思います。公民館が住民主体で互いに楽しむことができる交流や活動の場となるよう公民館活動を推進したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

新任のあいさつ

職員
小松職員

本年度より梓川公民館に事務員として勤務することとなりました。何分、初めての務めとなりますが何卒よろしくお願い申し上げます。公民館の活動は皆様と身近なものであり、皆様の支えがあって成り立っております。私は梓弓研究会の副会長として活動しており、講座などでお役に立てましたら幸いです。

新任のあいさつ

主事
安藤主事

4月より公民館主事として着任しました。

以前は資産税課で新築家屋の調査を主に行っていました。初めての異動で一からのスタートとなりますが、梓川地区の皆様のお力になれるよう頑張っていきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

通学路を見守り

早朝、子どもたちの登校風景の中に、緑色のビブスを着た方を見かけます。梓川地区で子どもたちの登校時の見守り活動を行っている『あずさっこ見守り隊』というボランティアの皆さんです。発足して10年目となる現在、12人の方が地区の安全のために見守り活動を続けています。

充実した活動

毎朝、自宅前の交差点付近で活動する巾嶋さんは「近所の子どもたちと毎日あいさつをして、元気をもらっている」と笑顔で話していました。

また、梓川小学校前の横断歩道で活動する川村さんと丸山さんは「地域の安心・安全のために、毎日子どもたちに声かけすることが大切」と、また「通勤の忙しい時間でも、スピードを抑え子どもたちの登校を見守ってくださるドライバーが増えた」と感謝していました。

隊員の募集

現在の見守り隊の課題は「高齢化による隊員の減少」と「通学路の交通量の増加」です。もう少し大勢の方の目で見守ることができれば、より一層安心できると感じます。見守り隊の活動に興味のある方は、梓川公民館（梓川支所内）にご連絡ください。（78-3001）

▲梓川小学校前

▲笑顔で見守り

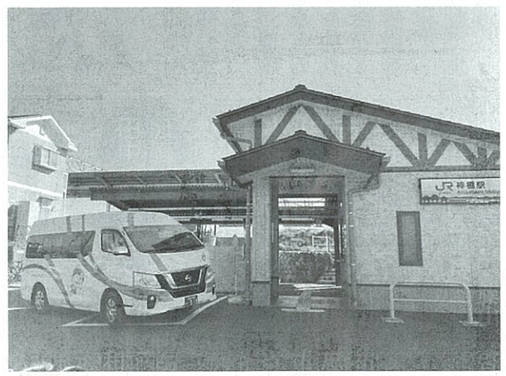
ぐるっとまつもと運行開始

4月1日、松本地域の路線バスが公設民営になり「ぐるっとまつもと」が運行を始めました。地区内を運行していた西部地域コミュニティバスも便数や運行ルートが見直され、終点が新村駅から梓橋駅に変更されました。

利用者の声

4月半ばの平日朝の通勤通学時間帯に利用すると、すでに高校生5人が乗車していました。乗客で市内の高校に通学しているという女子高校生（3年）は、この4月から週3回ほど利用しており、「バスで駅まで通えるようになったのは便利だが、毎回往復300円の出費は高校生にとって大きい」と話していました。

運転手に4月からの利用状況を尋ねると、「市立病院までの直行便がなくなり、波田駅から病院までの坂道を高齢の方が歩いているのを目にする」とのことで、利用者にとっては一長一短があるようです。


▲梓橋駅

実証運行の開始

10月から地域の店舗や病院などをつなぐAI活用型オンデマンドバス（予約運行の乗り合いバス）が実証運行され、住民の生活の足として、不足する便数や運行ルート空白地帯の解消が期待されます。定期券の導入や回数券の拡大による負担軽減、キャッシュレス決済の早期導入による利便性の向上など、多くの住民に長く利用される公共交通となってほしいと思っています。

雑記帳

新型コロナの規制も緩和され始め各地で催しも再開されつつあるなか、梓川地区最大の祭典である大宮熱田神社の例祭は今年も神事のみの開催となった。小学生は太鼓、高校生以上は獅子舞と、地域の親睦も深めつつ歴史ある祭りに参加できることが楽しみであり誇りであった。成人してからは宵祭前日の準備を終えた後「前祝い」と称して駅前に繰り出し朝まで飲んでそのまま幟たてをする元気もあった。しかし今では年配者や女性が多く、あの大きな幟をたてるのも一苦労である。宵祭の山車の子どもの太鼓も少子化により保護者が補助し、祭の華である獅子舞の奉納も我が町会では40代以上が現役である。他の町会でも人手不足に悩まされているようだ。また、町会ごとにお囃子や踊りも違うので統合もできず難しい問題でもある。

来年の開催に向け協議を重ね、歴史と伝統を尊重しつつ時代の流れに沿った形でまたあの楽しい「お祭り」が返ってくることを望みたい。

視点 ⑪ 信州大学 金井直教授 アートは自由だ！

規模感が良いまち

「松本には大学やサッカーチームがあり、オーケストラの演奏にもふれられる。地域への意識も高く、人が住むために大事なことがそろっている」と話すのは、信州大学の金井教授（人文学部）です。現代美術を研究分野にする金井教授が松本の地で学生を巻き込みながら、美術を多角的にとらえた取り組みを行います。

自由な作品との対話

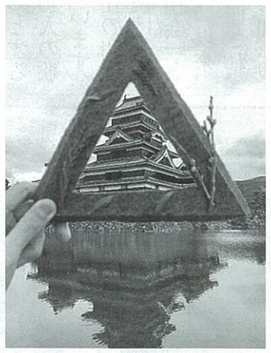
ひとつが、アーティストとコラボしたワークショップや展覧会の実施です。昨年の12月と今年の1月には版画家の常田泰由さんの協力のもと、画用紙に自由に絵を描き、バラバラにして束ねる、本づくりのワークショップを行いました。参加者は、型にはまらない美術の面白さを体験すると同時に、アーティスト・参加者・学生が作品を介して対話する場になっています。

世界にひとつだけの本づくり

展覧会は、これまでに市内の和菓子屋や大学構内の赤レンガ倉庫などで実施しました。その場所の雰囲気、歴史を活かした展示をアーティストと共につくり上げています。

暮らしの中の芸術

金井教授のもとで学ぶ、鳥山倫史さん（人文学部4年生）は「枠ワク切り取るまち歩く」を企画しました。この企画は、フェルトに市内で拾った落ち葉や木の実を貼り付けて作ったフレームから、まちをのぞいて楽しむものです。日常のなかの当たり前を芸術的に捉えるきっかけになっています。


三角フレームに
きれいに収まる松本城

鳥山さんは、大学での学びを通して「凝り固まったバイアス（先入観）がなくなり、アートって自由だと思うようになった」と話します。金井教授と学生が提案する、自由な芸術が、松本のまちを、違った視点から捉え直しています。

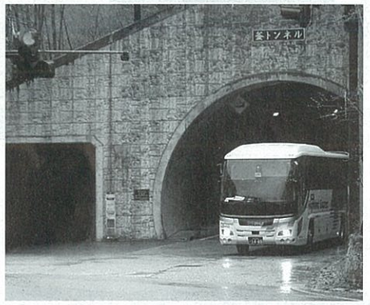
金井先生にインタビュー！

写真でつづる まつもと今昔 61

～ 時代の要求に応えて ～

昭和2年　完成したころの様子
開村130年のあゆみ（旧安曇村編纂）より転載

釜トンネルは、大正池の水を霞沢発電所に送るための、送水管を運ぶ目的で作られた。工事終了後は道路用に整備され、昭和8年に大正池までバスの運行が始まった。


令和5年4月26日撮影

当初は狭く急傾斜で、その上信号による交互通行で不便だった。少しずつ改良を続けていたが、新しいトンネルが求められて、平成17年に現在の釜トンネルが完成した。

おこひる

農業を本格的に始めて数年が経過した。私が目指しているのは、一部の作物を除き有機野菜作りである。当初は2トンの堆肥をどう使い切るか考えてしまったが、今ではその何倍あっても平気だ▼5月は夏野菜の播種作業を計画的に進める時期だ。ナス・キュウリ・オクラなどは直まき栽培だ。そのためには有機質肥料を豊富に含んだ地力が無いと育たない。移植苗や接木苗は使わなくなった▼作業記録を残すことは大切である。1日の作業記録はA4白紙1枚を使い記入している。4色ボールペンとマーカーを活用すると見やすくて便利だ。作物の成長記録と明日の予定も記入している。雑草対策は厳寒期を除いてルーティンである。圃場に除草剤を使わないので、三角ホーや除草バーナーで対策している。雑草の種類によって対処方法を変えるようにもなった▼有機野菜作りは15年の年月が必要といわれている。まだ先は長いが、有機質で育った健康野菜とともに自身の健康にも気を使って、達者で長生きできれば幸いである。

歴史探訪 探ろう松本 34

和田地区

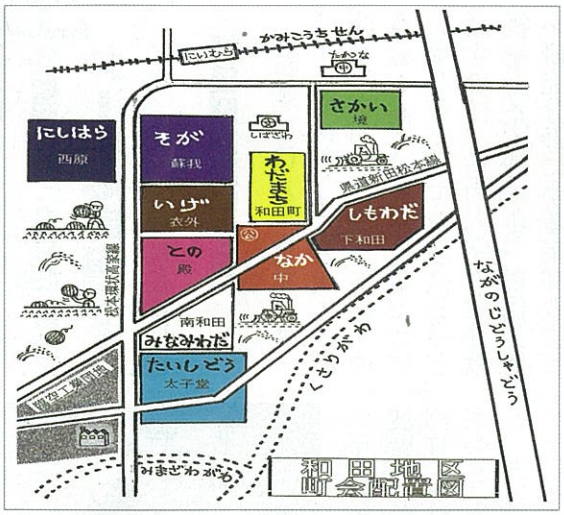
古くから文化が開け、教養を尊ぶ気風の和田地区は、多くの文化人を輩出しています。

地区の概要

松本平のほぼ中央、梓川と鎖川に挟まれて、穏やかに広がる複合扇状地に立地し、蘇我・衣外（いげ）・殿・南和田・太子堂・中・和田町・下和田・境・西原の10町会で構成されています。令和5年4月1日現在4、134人・1、510世帯が居住しています。

昭和の大合併（昭和29年）の頃は、水の恩恵を受け、稲作中心に酪農や養蚕などの農家が8割を、現在は2割程度になりました。

昭和57年、松本市が工業団地建設地区に指定し造られた松本臨空工業団地は、今や県下最大の規模となり発展を続けています。



培われた文化

明治維新まで、178年もの間、幕府の直轄領でした。年貢・生活の規制など藩領と違った扱いを受けてきたことが、村民の間に比較的自由な気風と進取の気性が育ったものと思われます。

近代から現代においても、松本市の文化・教育の一拠点となり、市で初めての文学館「窪田空穂記念館」が開館し、短歌教室・文化講座などが行われています。和田公民館に隣接する「歌碑公園」には、木立の中に窪田空穂・太田水穂をはじめとする和田ゆかりの文化人10人の歌碑・句碑が建てられています。

昭和7年、東京在住の和田出身者が、心に生き続ける故郷の思いを「東京和田会」として発足させました。以来、毎年東京で総会が開催され、地区からも代表者が参加し親睦を深めています。

「歌碑公園」にはたくさんの碑があります

これからの催し

コロナ禍で地域活動も停滞しました。行事の中止で住民相互のつながりが薄れることを懸念しています。行事の再開にあたり、全世帯を対象にアンケート調査を行いました。これを機会に、さまざまな思いや期待が反映できる活動を目指してゆきます。

松本平の野鳥たち

オオルリ　（2022.5 松本市入山辺　写真提供：信州野鳥の会）

スズメよりやや大きい。幸せを運ぶ青い鳥として有名。日本三鳴鳥（ウグイス、コマドリ、オオルリ）の中でも、ルリ色が美しく複雑な鳴声が魅力的な日本を代表する夏鳥。ほぼ全国の渓流沿いの森林などで姿をみることができる。樹木の梢など目立つ場所で「ピィー　チュリー　ジジ」「ピーリーリー」「ピールリピールリ　チチン」など澄んだ声で良く鳴く。アルプス公園ではキビタキとオオルリの競演が見事。

表紙について

松本城の桜

今年は例年より非常に早く開花し、撮影時はちょうど見ごろでした。お天気も良くて、お客様もたくさん訪れていました。見どころは、外堀沿いの桜並木を橋の上から見るのがおすすめです。

（撮影　2023.4.3　松本城）